

第1回町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画改定検討委員会 会議録

- 開催日時 2022年8月31日（水）14時～16時
- 場 所 町田市庁舎10階 会議室10-3
- 出席者 出席委員： 川原晋委員長、寺田徹副委員長、石井秀幸委員、
仲村清彦委員、菊山聖哉委員、越水淳委員、
園田理恵委員、樋口健治委員、坂本愛委員
欠席委員： なし
傍聴者： なし
事務局： 経済観光部長
観光まちづくり課長
他事務局4名

○資 料

- 1 町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画改定検討委員会設置要領
- 2 委員会委員名簿
- 3 「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画～Ver. 2～（骨子）」
- 4 アンケート調査業務報告書

○次 第

1. 開会
2. 経済観光部長挨拶
3. 町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画改定検討委員会について
4. 議事

事務局より計画に関して説明を行い、以下の質疑応答があった。

- 1) 四季彩の杜についての情報共有（四季彩の杜について感じていること）
 - ・薬師池公園は丘陵地に近く、里山的な雰囲気が残っており、その地形や植生を含む自然が魅力と考えている。
 - ・西園のウェルカムゲートでは様々なイベントを実施しており、多くの方に愛される場所になっている。
 - ・薬師池公園内に椿園があり、730種類の椿がある。他にも80種類程の椿があるが、雑木が大きくなりすぎて花が咲かず品種が分からない状態。東京都内での公共の椿園において、薬師池公園が一番椿の種類が多いので、今後宣伝し

ていく必要があると考えている。また、時間があれば国際椿協会の国際優良椿園に登録しようと思っている。

- ウェルカムゲートのスロープが4%勾配となっており、登っている感じがせず利用しやすい場所となっていると思う。
- 公園内の畑を提供しており、もともとは草刈などをやっていた。昔は薬師池で釣りができていたが、今は出来なくなっている。
- 西園はコロナ禍でのオープンだったが、1年目に55万人、2年目に58万人の来場者が来ている。四季彩の杜は9施設あり、連携を強めて観光地にしていきたいと考えている。
- リス園は就労支援施設のB型に該当する施設である。知的障がいの方の一般就労をサポートすることが目的の施設となっている。コロナ禍で入園者が減少していたが、最近は少しずつ回復の傾向となっている。
- 今年の春からの四季彩の杜のおもてなし事業を開始し、9つの施設間で連携して、全体で盛り上げていけるような取り組みを行っている。

2) 四季彩の杜の未来に引き継ぎたい価値や課題について①

- 四季彩の杜は8エリアあり、全体的で考えた時の四季彩の杜の魅力は、各施設で個性が際立っているという点である。それぞれの施設で季節性はあるが、見どころの時期だと唯一無二の景観を提供できるという点や、リス園であればリスに特化しているなど、やはり唯一無二の価値がある。各園の個性を伸ばしていく方が、四季彩の杜全体の魅力向上につながると考えている。特に際立っている個性としては花が最も際立っている。ただ、老朽化した施設がかなり目立っているため、施設の更新も必要と考えている。
- 起伏のある丘陵地が魅力的だと考えている。薬師池公園内で高低差が40m、ウェルカムゲートやダリア園では高低差が20mくらいある。例えば、ダリア園はフラットな土地に作るため、ダリアを上から見下ろすような体験はこの場所ではできない。同様にリス園も見上げたり見下ろしたりして触れ合うという、その地形ならではの体験が出来るという点がこの公園の財産と考える。
- エリア内に雑木林という落葉樹の木、農業としての畑や園芸があり多様な緑の質が違和感なく混ざり合い、緑のミュージアムのようになっている点が魅力的な点である。
- ウェルカムゲート内の受付に、四季彩の杜のすべての施設の問い合わせが来て、今どんな花が咲いているかという問い合わせが多い。そういったことから、花修景に力を入れていく必要があると考えている。ファーマーズセンターのソバの花やコスモスが一面に咲く規模は、西園より大きく見応えがある。

- 駐車場がないことが欠点となっている。特に大型バスの駐車場の受入れが全くできていないため、観光の面では改善が必要と考えている。
- リス園は子供たちの目線に小さい動物がおり、大人が目線と違った小動物がいるということが魅力となっている。また、日本の中でリスと触れ合うことが出来る場所が少ないということから、特異な存在となっていると考えている。
- 課題として、5月の連休中の駐車場不足や施設間の移動が挙げられる。最近ではレンタサイクルが設置されており、使用率は高いと思うが、各地点をつなぐような何か対策が必要と考えている。
- リス園は現在台湾シマリスがメインで本土シマリスがないのが課題点と考えている。今後は日本のリスを育てていく必要があり、敷地面積を広げる必要があるため、七国山の中に移転するなどの四季彩の杜全体の構想を作り直しが必要と考えている。
- リス園は窪地になっており風が吹かず、日陰で多湿となっており、小動物が過ごしやすい環境となっているため、生き物にとっては良い環境となっている。
- 薬師池やぼたん園、えびね苑については開花状況が市のホームページから協会に飛ぶような形となっており、見ごろの時期はアクセス数が増えるため、花に対しての意識が高く人気がある状況。
- 四季彩の杜全体として遊具がないが、それが四季彩の杜らしさでもあると考えている。各施設で十分に手入れがされており、田舎すぎず都会すぎない場所であるので、誰もが行きやすい自然を楽しめる場所となっているため、自然を活かしたのものや、歴史や環境を活かすことが重要である。
- 季節感を繋ぐというテーマから、春のイベントの期間中は各施設間を人力車や周遊バスを走らせている。学生の方からは見慣れない景色を新鮮に感じられるという意見が多く、今後も現在の景観を残す必要がある。
- 子供のころ父親に連れられて、尾根の道を薬師神社から登っていく道を散歩しており、住宅もあるけど豊かな自然も感じられる空間に価値があると考えている。
- 手が届く自然や歩いていること自体が楽しめる空間を残していく必要がある。
- インスタなどで写真を挙げるためにダリアの花は若者に人気があり、若い方の来園者が多かった。施設ごとに来園者層が異なり、その方たちに次の場所に行ってもらえるような、魅力的な場所を作れると良いと考えている。
- 若い人は写真を撮ろうとしたときの背景を大事にしており、没入感を演出できる空間があるのはとても良いと考えている。

3) 全体の運営事業について確認

- 2014年の懇談会では公園緑地課が主体となっていたが、今回の主体は観光

まちづくり課となっている。理由は公園としての管理が優先で入ると魅力が削がれて楽しいものでなくなる可能性があるため。しかし市が行う事業としては変わらないため公園緑地課と話をすることは可能である。

- 他の自治体の場合、最終的に事業局が自身の管轄から離れて難しいと考えている。それを今回のように観光部局が中心となり、交通なども繋げた運用を行うのは可能性のあるチーム作りだと考えている。

4) 薬師池公園の歴史について

- 町田市にボランティアで 25 年携わっているが、当時は市が観光事業を考える余裕がなく、インフラも遅れている状態だった。薬師池を所有していた 7 軒の農家から寄付が合って薬師池公園ができた経緯がある。一般的に用水は北向きだが四季彩の杜で初めて南向きの用水池ができた。
- 地理的・地形学的な話は大事だと思う。ランドスケープとして運用する際にも歴史的な経緯を含めて知見など今後話を聞きたい。

5) 雑木林の維持管理について

- 現在あしながの虫被害が発生している。防除について意見を聞きたい。
- 公園緑地課としての見解は農薬で対応している。しかし効果はそれほど無い。昭和 30 年までは炭焼きを行っていたがそれ以降は雑木林の伐採を行っていないため雑木林の樹高が 15~20mの高さになっている。
- 人が使う森・里山としてどう作り変えていくのかは意見を伺いたい。
- 柏市も同様の悩みがあり、若い萌芽更新の林に戻すのが一番良いが、萌芽力の落ちた径が太い状況では難しい。当公園でも雑木林の高木化が進んでおり、伐採で明るくしていくべき環境もあると考える。民有林は手がつけにくい公益指定されている樹木は健全な形にしていくべき。森林環境税がついているため、優先的に施設周りの森林については要望を出すことができるのではないかと思う。
- なんとなく森だから大事にしようという考えではなく、間伐など行いながら全体的に草木を楽しむ状況を作らなければならないと思う。
- 杉やヒノキなどの場合は間伐でも良いが、ナラやクヌギは解砕するしかない。10 年前に薬師池公園のナラの伐採を行ったが半分ほど伐採したところ自然保護団体より反対を受け、伐採を断念した経緯がある。
- ウェルカムゲートでもかなりの落葉樹を植えており、そうするといつかは伐採するという旨を YouTube やボードなどでオープンに伝える必要があると考える。

- 過去には炭焼きをしていたが現在は出来ないため、中学生の職場体験や総合の時間などで大木の雑木を倒し、シイタケ材を作らせようと考えている。
- 埼玉でも林業で盛んだった街で、広葉樹を含めてどう切って使っていくかを色々と考えている。レクリエーション・アクティビティと絡めていきながら森を新しく作っていくのも良いと思う。

6) 四季彩の杜の未来に引き継ぎたい価値や課題について②

- 地形や草花、雑木林など自然が残っているが、我々世代からすればだいぶ手が加わっているなというイメージがある。もっと下の層をターゲットにするには、遊具が必要となるが危なくないような遊具を設置するのが良いかと思う。またえびね苑は当初植物の種類が結構あったが、以前よりも少ないという意見を聞いており、低迷していると考える。
- 学校やご近所の農家での農業体験が四季彩の杜内でできれば、子供たちは農作業と自然の体験ができるため、学校と共同で行うのも良いと考える。
- 子育て世代でも知らないことが多くあると感じており、大人と子供と一緒に学べる環境自然教育みたいなものができれば良いといつも思っている。
- 園芸はやるが農作業をやらないというのは結構多い。農作業は子供の時期にある程度知識をつけないと、どうやって作物が出来るのか分からないと思う。せっかくの施設なので有効利用できれば良いと思っている。
- 七国山は昔七つの国が見えるという意味で名付けられた場所であることから、七国山に展望台があっても良いと思う。
- 単に移動するだけじゃなく、散歩する楽しみがある場所をエリアの中に作っていくという事が実はあまり考えられていなかったのかもしれない。展望の良いところは木が大きくて見えない状態もあるため、重要性を作るうえでも森林のコントロールのため色々な視点から切る考えがあるのではないかと思った。
- 昔を考えると七国山は鎌倉古道のイメージがある。どうやって戦国時代に利用されていたかイメージができないためそういった情報をパンフレットに入れても良いのではないかと思う。

7) 四季彩の杜のエリア計画について

- 計画の中で重要なのは全体計画で、町田市はどのあたりをこれから買収したいか、どういうものを作るかを全体で練る必要がある。用地買収することや公園地域の計画をしたら、今後は建築確認申請を受けても許可を与えないようにすべき。地域から外れているが薬師中学校が廃校になるため、その跡地のエリアを公園と一体的に利用することも考えていく必要がある。リス園をそこに

移動したり、野外劇場を作るのもいい。さらに大事なのは町田市が民間業者に売却しないこと。また七国山と四季彩の杜の間の民有地を何年かで買収してハイキングコースを作れば良いと思う。あまり既存の自然をいじる必要性はないと思う。

- 薬師中学校の廃校を一緒に考えること、さらには隣設団地の高齢化問題や団地リニューアルのようなことを考えるのも良いと思っている。
- 農家からしてみると後継者がいない上に相続税は高い。話をつけて寄付や土地貸などの交渉をすれば良いと思う。施設園芸以外ではあまり収入を得られないため都市農業としての魅力が非常に落ちている。そうした農家の問題に町田市が協力して自分たちの土地としてどうやって緑地維持をするかという発想にならないと、個々の農家の努力だけで山林や田畑を維持するのは限界となっている。
- 鎌倉街道が将来広くなることが確定している。車の渋滞緩和のメリットはあるが人や生き物の往来がしづらくなる。往来をするため西園の中にアニマルパスのようなものがあったら良い。
- 写真愛好家がいてクオリティも高い。写真も紙で完結するよりはデジタルアーカイブを作って写真愛好家が集えるよう場ができると良いのではないかなと思う。
- 四季彩の杜のペントハウスを通過した中に施設があるが、コンパクトすぎる。イベント交流などをするにはもう少し大きな施設がよかったのではないかな。ただ、カフェの食堂の前に施設を建ててしまうと、芝や季節の花が見えなくなってしまう。建物の配置を入れ替えながら交流会ができるような広場が欲しいと思っている。
- 現在の西園では集客性がコンパクトになってしまっている。西園だけに頼らず、他施設との連携も考えていく必要がある。
- 現在の西園は 1000 m²で出来る限り最大規模の土地利用となるように作っている。コロナ禍となり結果的に、分設された現在の施設の状態が今の時代に合っている。そういったことから、廃校になったエリアや北園などのこれから整備するエリアを、現状のような活動エリアを分散するということを提言することもあるかなと思う。
- エリアの有効利用など今後検討していく時の素材とするため、どういうことをしていく必要があるのかなど、次回の委員会までに各自で考えていただきたい。
- 西園では様々なイベントを実施しているが、既に施設としては満杯の状態となっており、駐車場が溢れかえり、広さが足りていない状態。そんな中で昨年の秋に 1 日で 2 万人というお客様がイベントで来園されており、何か問題が起

こるのではないかという心配があった。そういったことから新しい南園や北園などで多くの人を集める施設を作る事が良いと思っている。

- 西園から薬師池公園に抜ける道はあるが、バリアフリーとなっておらず、薬師池公園に行くためには、急な階段を下りないといけない状態となっているので、バリアフリー対応などのアクセスの確保を町田市に対応いただきたい。
- バリアフリーの対応をしようとする、自然地形を壊すことになってしまうが、地形を活かしてバリアフリー対応の通路を整備しようとする、経費が高くなってしまう。
- 何を大事にしたいか、バリアフリーでなるべくエリアを繋ぎたいという話や自然・地形を守り景観を大事にしたいという思いの両方とも大切な観点である。
- 地形を崩さずバリアフリーへの対応が難しい場所では、電気自転車や電気車椅子を導入する方法も考えられる。こういったものを導入すれば全員が斜面地を楽しむことができる。前向きに斜面地と向き合っていくのが良いと思う。
- 事務局にて作成している、グランドデザイン図と花暦は一緒にした方が良いと思う。アクティビティと空間を紐づけて一緒に描き切る事が重要。四季彩の杜なので、春夏秋冬のグランドデザイン図があり、季節性が見所が分かるようにすると良い。空間を繋ぐだけでなく、時間を繋ぐというのもグランドデザインに入ると魅力的になると思う。
- 七国山は歴史と眺望の価値が高いため、展望台を作り、見晴らしができるようにするというのは、エリアの魅力を活かす施設整備として真っ当だと思う。歴史と眺望を重視するのであれば来てくれた人が鎌倉古道のストーリーを語ってもらえるガイドなどをつけるなどのやり方も必要だと思う。
- 椿は光が足りなくて開花しなくなっているのであれば、椿がこの場所の魅力であるから、椿の開花を助けるために大径木を伐採するなど、そういったことを伝えていき、今後進めていくべきことを明確にしていく必要がある。
- 各エリアのプライオリティが高いので、各園の魅力はこれなので、10年は絶対にこれをやるべきなどしっかりと方針を定めて行く必要があると思う。
- 北園は、まだ整備が始まっていないので、大きな方針や今後期待する機能などをこの計画に入れておくことが重要だと思う。現状駐車場が足りていないのであれば、北園にオープンスペースを設けるなど、今後整備の可能性があることを計画に入れていくと、全体の魅力や使い勝手が良くなると思う。
- 北園にファーマーズセンターがあるが使われておらず勿体ない。ファーマーズセンターを魅力的にしていく必要がある。
- ファーマーズセンターは現在農具と農作業だけの施設となっており、利用者の方が来るにはハードルが高いので、食が入れば関わりやすくなるしそこから農体験へと繋がるともっと魅力的になると思う。

5. 連絡事項

- 四季彩の杜現地散策：10月17日（月）9:00～16:00（任意参加）
- 第2回委員会：11月21日（月）10:00～12:00
- 第3回委員会：2月15日（水）10:00～12:00
- アンケート調査結果を配布した。
- 次回委員会開催までに、それぞれの四季彩の杜の楽しみ方を考えていただく。

6. 閉会

以上